



新宿小だより

学校教育目標

やさしく

かしこく

たくましく

7月の生活目標：学習に進んで取り組もう 児童数561名 令和8年7月号

夢を実現する ～努力の天才から学ぶこと～

校長 横田 亜希子

「僕の夢は一流のプロ野球選手になることです。そのためには中学、高校と全国大会に出て活躍しなければなりません。活躍できるようになるためには練習が必要です。僕は三歳の時から練習を始めています。三歳から七歳までは半年くらいやっていたんですが、三年生の時から今までは三百六十五日中三百六十日は、激しい練習をしています。だから、一週間中で友達と遊べる時間は五、六時間です。そんなに練習をやっているのだから、必ずプロ野球の選手になれると思います。そして、その球団は中日ドラゴンズか、西武ライオンズです。ドラフト入団で契約金は一億円以上が目標です。僕が自信のあるのは投手か打撃です。去年の夏、僕たちは全国大会に行きました。そして、ほとんどの投手を見てきましたが、自分が大会ナンバーワン選手と確信でき、打撃では県大会四試合のうち、ホームラン三本を打ちました。そして、全体を通した打率は五割八分三厘でした。このように自分でも納得いく成績でした。そして、僕たちは一年間負け知らずで野球ができました。だからこの調子でこれからもがんばります。そして、僕が一流の選手になって試合に出られるようになったら、お世話になった人に招待券を配って、応援してもらうのも夢の一つです。とにかく一番大きな夢は野球選手になることです。」

藤尾秀昭（2002）「致知」致知出版社

これはイチロー選手が6年生のときに書いた作文だそうです。イチロー選手といえば記録はもちろん、記憶に残る名言を残すことでも知られています。小学生でありながら、夢に向けた揺るぎない決意と努力、自分を支えてくれている人々への感謝の心は、さすがとしか言いようがありません。イチロー選手が「努力の天才」と言われる所以は、小学生の時から培われていたのですね。私たち大人も、この小学生から学ぶべきところがたくさんあるのではないのでしょうか。

誰もがここまで明確な夢に出会えるかというと、必ずしもそうとは言い切れませんが、「他のことより、または他の人より、努力することを苦痛に感じないこと」「やっている楽しいと感じること」「もっとうまくなりたいと思うこと」に出会えたら、それが夢の種なのかもしれません。子どもたちがたくさんの夢を描くことができる、新宿小学校がそんな日々を送ることのできる学校でありたいと願っています。

